



SANSHIN GROUP
Monthly Report on the CSR
Dec.2017

INDEX

1. サンシングループの経営理念とCSR
2. 管理会計をもちいた経営戦略
3. TOP MESSAGE
4. グループ社員による今月のつぶやき
5. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
6. サンシングループの企業行動基準
7. 未来形から問題を解決するソウレンホウ
8. CSR Report (品質)
9. CSR Report (環境)
10. CSR Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers

We're loved by our customers

*Always be a Virtuous **Shonin***

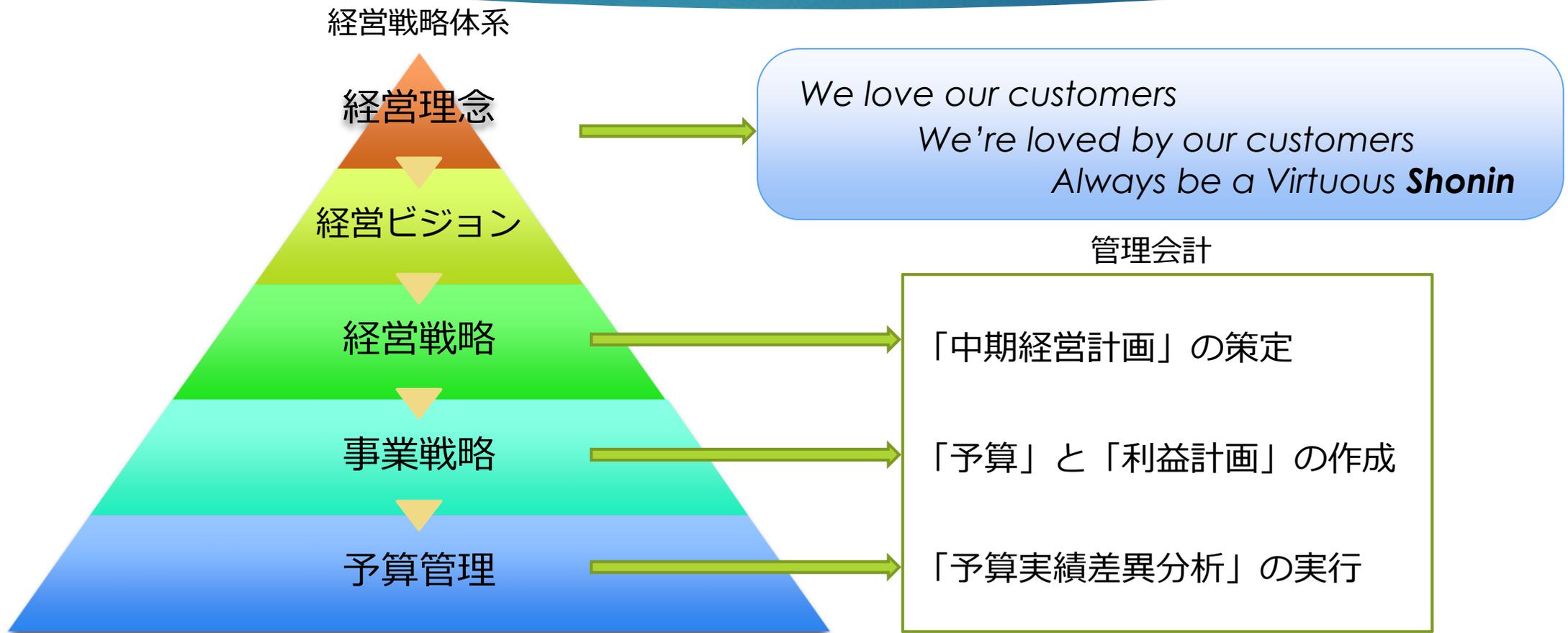
Virtue as a Shonin

It is important for us to have Virtue as a *Shonin* in order to secure our customers' approval and support at all times.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステークホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

管理会計をもちいた経営戦略



グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

今年もインフルエンザの流行が始まりました。ピークは2月頃との予測もあります。感染予防の為に、人混みを避け、手洗いやうがい、外出時にマスク着用の習慣をつけましょう。日頃から、バランスのとれた栄養や十分な休息をとり、抵抗力をつけておくことも大切です。(A.K.)

SANSHINCentre

JR東日本が駅ビルなどの食品廃棄物を燃料に発電する記事を読みました。ゴミがなくなると同時に発電出来ることで、燃やした後の食品を肥料などに活用出来れば、食品サイクルが可能となり環境にも優しいと思います。(M.M.)

CSI

普段は特に四季を感じにくいセブですが、クリスマスが近づいてくると変化を感じます。12月になりクリスマスの電飾が付き始めました。ほとんどが青と白のLEDの電飾で、以前の様子から落ち着いた感じになっております。(K.S.)

SC2

広島高裁で、伊方原発の再稼働差し止め仮処分決定が下されました。その少し前に、廃炉が決定した「もんじゅ」。もんじゅは「廃炉を想定していなかった」とまで表現される、究極の「トイレのないマンション」でした。原発に別れを告げ、新たなエネルギー源、新たなシステムを選択する時代も、まもなくやってくるでしょう。(M.I.)

SANSHINWest

年末の帰省でマイカーを使われる方も多いかと思いますが、この季節、暖房を使用する為、ガソリン代がかさみがちになります。車が発進してから約5秒後に20km/hになるようにすれば約1割のガソリン消費量を減らす事ができます。皆さんもお試し頂ければと思います。(K.M.)

SHINKOWA

今年も残り少なくなってきました。2017年の漢字が「北」となり、北朝鮮ミサイル発射問題、北海道の大雨でジャガイモが供給できずポテトチップスが売り切れ状態だったり、競馬では北島三郎氏の持ち馬「キタサンブラック」の大活躍等ありました。来年は平和で、天候不順も無い年になって欲しいと願うばかりです。(M.N.)

SANSHIN HongKong

Now most wild genetic stocks have been disappearing from nature. Wilding including the Asiatic Lion are facing problem of loss of genetic diversity. The protected areas network like sanctuaries, national parks, biosphere reserves are isolating populations. So, they are decreasing changes of one group breeding with another. Remedial steps are to be taken to check decreasing genetic diversity. (K.N.)

SFS

大掃除の時期です。新聞紙を丸めて濡らし、床に撒いて箒で掃くと綺麗になります。しかしインクは体によくありません。amazon.co.jpでは印刷していない新聞紙を買えます。エコ掃除派にはお勧めです。「新聞紙 新品」「新聞紙 無地」で検索してみてください！(M.I.)

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



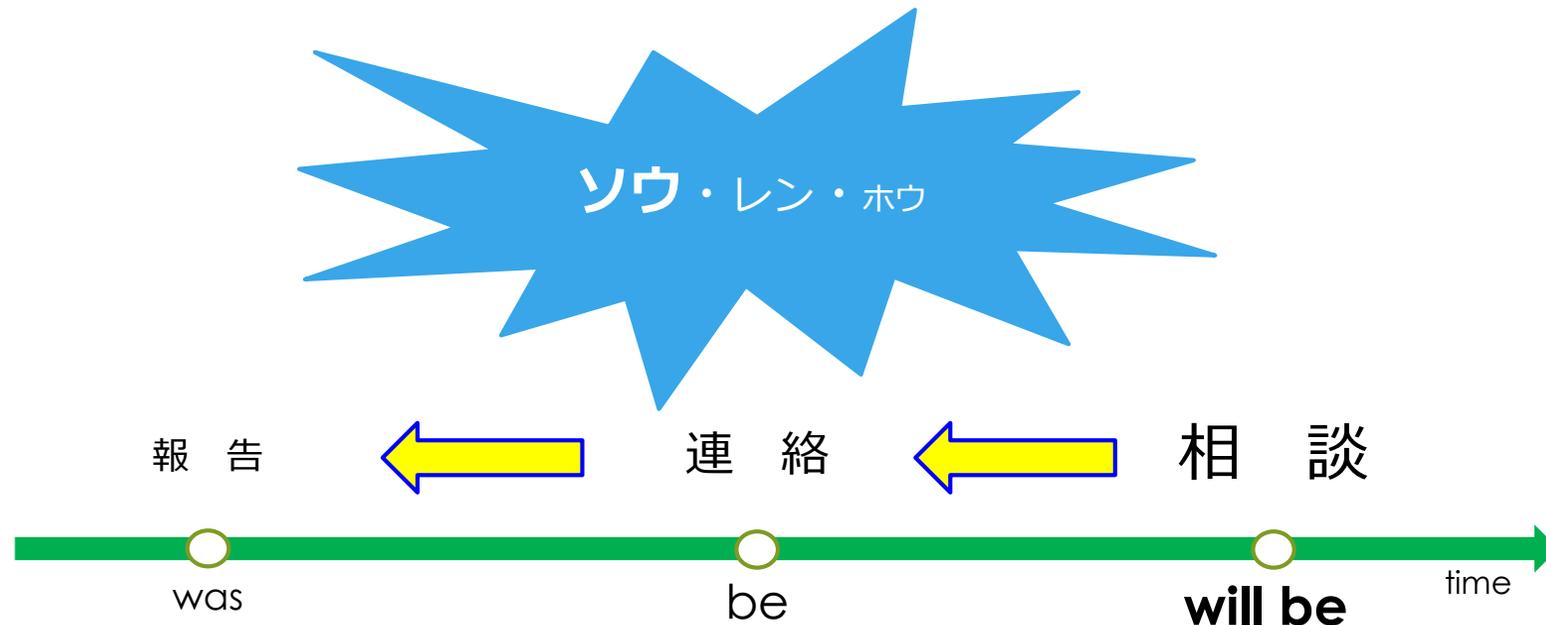
サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



CSR Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

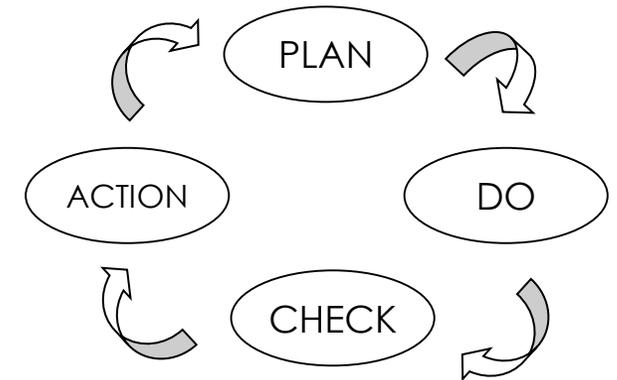
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

TOPICS

思考停止になってなる人に見られる行動

人間は同じことをしていると、どうしても「慣れてしまう」ものです。仕事をしていれば、こう思うことは日常的に起こります。しかし、実はこうした「いつもと同じで良い」「余計なことを考えたくない」という感情が、その人自身の成長どころか、チームの成長すらも妨げることになってしまうのです。

ここではまず「思考停止」に陥っている典型的な行動を取り上げます。

1. 物事を決めつける
2. 他人が言うことの「うけうり」をする
3. 根拠もなく古い習慣にしがみつく
4. 否定や言い訳が先に出る
5. 前例や過去に基づいて意思決定をしている
6. トラブルや失敗の再発防止まで手を打たない
7. 時間を気にしないで過ごす
8. 資料やデータをそのままコピペ（コピー＆ペースト）している
9. 「過去」か「現在」しか時間軸がない
10. 日々の行動がパターン化している

よく見てみると、いずれも考えることを放棄し、新たな行動に移すことを妨げる行為ばかりです。

なぜ、こうした思考停止に陥ってしまうのかというと、「楽」だからです。決まりきったパターンの中にいたほうが、失敗も少ないし、精神的にも楽。新たに何かをすればその分面倒ですし、失敗する可能性もあります。

しかし、ビジネスにおいては、現状維持は衰退とほぼ同じ意味といえます。もしこういう行動をついつい取ってしまっている場合は、自分があまり成長できていない証拠です。

「学ぶ」「考える」「成長する」といった知的活動は、本来ワクワクするものだと言います。しかし、そうしたワクワクが仕事の中から消えてはいないでしょうか。得た情報を鵜呑みにするのではなく批判的に検討したり、新たなノウハウを得たら実際に行動に移したりしなければ、思考停止から抜け出すことはできません。

思考停止から脱するための考え方を学びましょう。

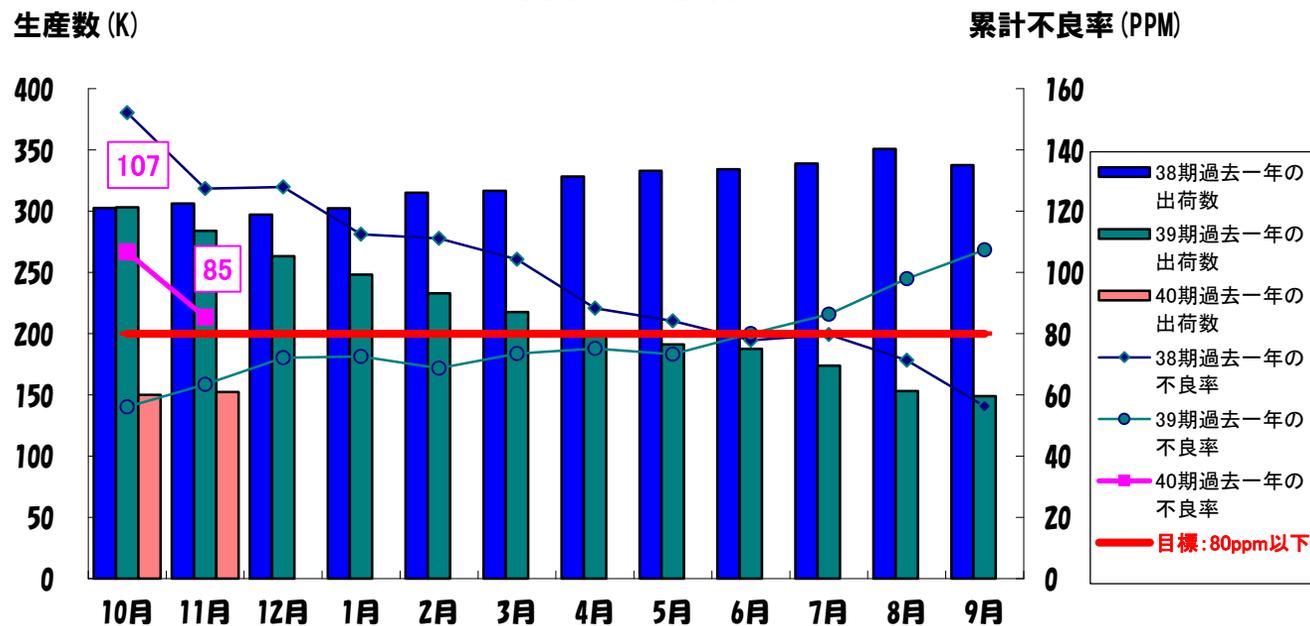
品質状況

納入不良率 目標.....80ppm

40期の累計不良率は、85ppm です。

市場不良累計(過去1年分) : 13件 客先クレーム : 0件

市場不良率「電源」



客先クレーム



活動報告 (SALES CENTRE WESTPJT)

■今回は、サンシングループの経営ビジョンである「お客様満足度の向上」について少し掘り下げて考えてみました。

最近では昔と違い、携帯電話・メールという手段が発達し、場所を問わずお客様とコンタクトできる時代になりましたが、それだけで本当にお客様の満足度が向上できているか、じっくりと考えてみました。
ポイントはお客様の期待を上回ることをお客様の為に実施するということではないかと思えます。

①お客様との信頼関係を構築する

まず第一にお客様との約束事・決められた期限を守ることが前提だと考えます。例えば納期の調整をしたり、代替品の依頼の回答などを迅速にし、この人と仕事をしたいという人と人との繋がりが大事です。

②お客様の期待を把握する

一概にお客様の期待を上回るにしても、お客様が実際に何を期待されているか（情報・サービス・製品等）を把握するのは、定期的な訪問が必要になると考えます。

③お客様のベストなタイミングで商品・サービスを提供する

例えば、飲食店でいくらおいしい飲み物を無償で提供しても、お客様が帰る寸前に出されては逆効果となります。そのことを避けるためには、お客様が今必要としているものを的確に提供できるタイミングが必要だと考えます。そのタイミングをつかむには、上記に記載した定期的な訪問を実施する必要があり、またお客様が求める製品を提供するためには1製品だけではなく、それ以上のクロスセルが必要になってくると考えます。

活動報告 (SALES CENTRE WESTPJT)

④お客様の声を真摯に受け止め、生の声を社内で情報展開を行う

まず、営業担当が窓口になりお客様の生の声を聞きます。その声を日々の報告や、社内情報共有を活用すれば本当の意味でのKAIZENができ、お客様の満足度の向上ができると思います。

⑤製品購入後のアフターサービスを徹底させる。

定期的に製品を購入していただけるお客様は常にアフターサービスも重要視しなければいけません。その為にはお客様といつでも繋がることのできるコミュニケーションシートを活用し、通常の納期回答のみではなくこちらから発信し続け、新しいサービス・製品を常に発信できることを構築しなければいけないと思います。

上記の5つのことを実施することで、お客様の満足度を向上させることとなり、「利益ある成長・発展」が望めると考えています。

SALES CENTRE WESTPJT
松田 憲介

CSR Report (環境)

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



活動報告

- ①環境への取り組み
- ②TOPICS
- ③廃棄物排出量
- ④コピー用紙使用量
- ⑤電力使用量
- ⑥切手・ペットボトルキャップ回収

環境への取り組み

- ▶ 災害地域への義援金や植樹活動支援金の募金活動
- ▶ ソーラーシステム導入による再生エネルギーの活用（SSD headquarters & SHINTO）
- ▶ 年に一度、植林を実施（CSI）
- ▶ 省エネルギー機器の開発・販売を通じた環境への貢献
- ▶ ROHS対応部品の使用促進による環境負荷低減
- ▶ ペットボトルキャップ・使用済み切手の回収
- ▶ ウェアラブルカメラを導入し、5S活動を徹底（CSI）



TOPICS

□ なぜ進まない？ 鉄道貨物へのモーダルシフト

貨物輸送をトラックから鉄道に転換する「モーダルシフト」は、CO2の排出削減や道路の渋滞緩和といったメリットがあります。トラックドライバー不足や過重労働といった問題の解決にも役立つことから、国も10年以上前からモーダルシフトを積極的に推進しています。現在のところ、運ぶ荷物の重さを基準にすると、貨物輸送における鉄道のシェアはわずかに1%。トラックは依然として90%以上の割合を占めています。数字を見る限り、モーダルシフトは停滞したままの状況です。

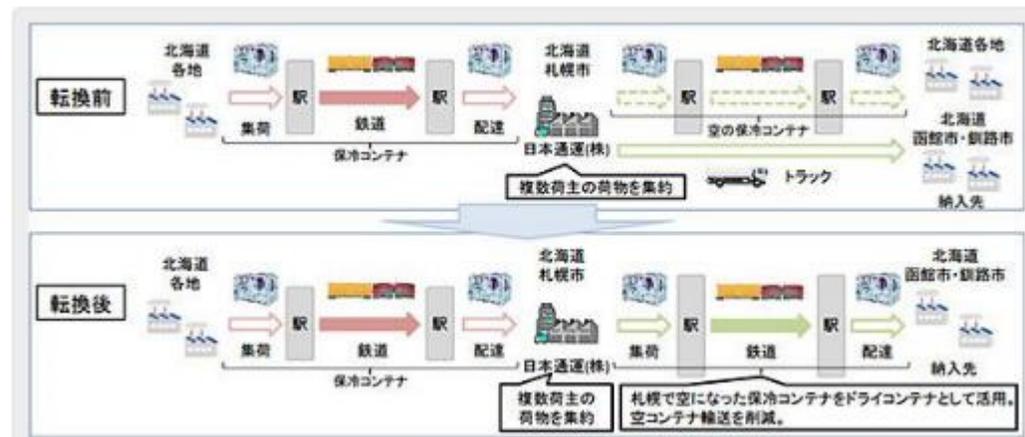
☑ 鉄道で運んでほしい荷物がいない？

実は、多くの荷主が鉄道を選ばない理由ははっきりしています。それは「運んでほしい荷物がいない」からです。

国が2011（平成23）年に荷主を対象として行ったアンケートでは、トラックで輸送している1億6700万トンのうち、鉄道輸送に切り替える可能性がある荷物は、わずか0.23%の38万トンにとどまりました。

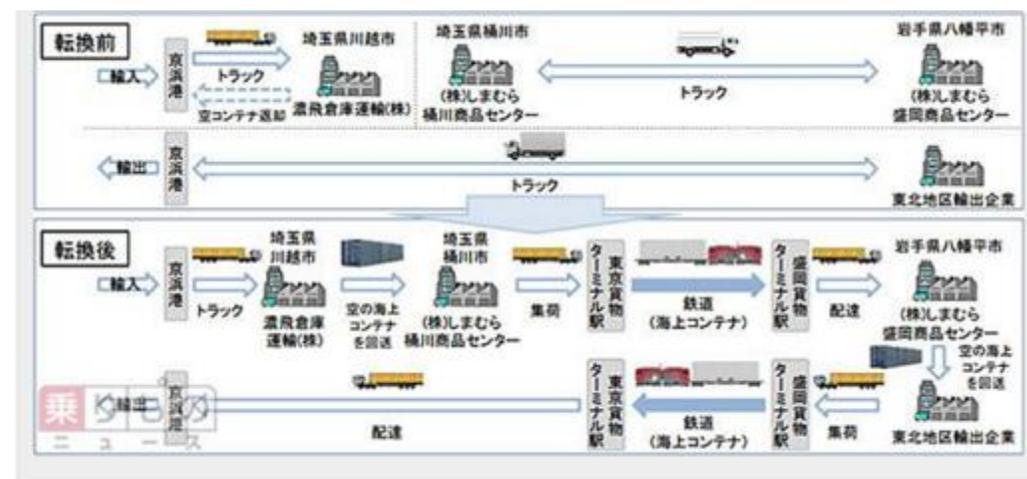
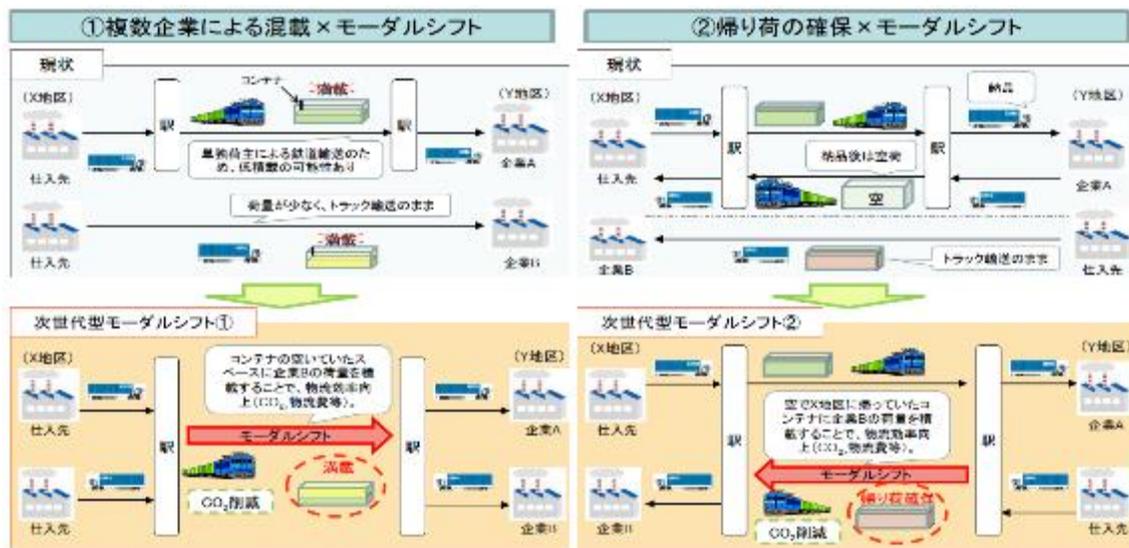
鉄道を利用する際の課題としては、小口の輸送に適していないことや、急な出荷量の増減に対応できないこと、トラックに比べて輸送コストが高いことなどが多く挙げられています。

小口の輸送や急な出荷量の増減への対応については現在、国の検討会でシステム構築を検討中。刻々と変わる大小さまざまなニーズを把握し、貨物列車の空き状況とタイムリーにマッチングする仕組みをつくらうというものです。



TOPICS

「次世代型モーダルシフト」と呼ばれる、新たな鉄道輸送の活用法も模索されています。国が2015年度の補助事業に採択した事業では、鉄道が空で回送する保冷コンテナを活用し、トラックの代わりに常温の荷物を輸送。また別の事業では、空の海上コンテナをトラックで貨物駅まで運び、鉄道輸送にその海上コンテナを活用します。いずれも、鉄道をトラックや船舶とうまく組み合わせて輸送効率を高め、コストを下げるのが狙いです。



出典：国土交通省

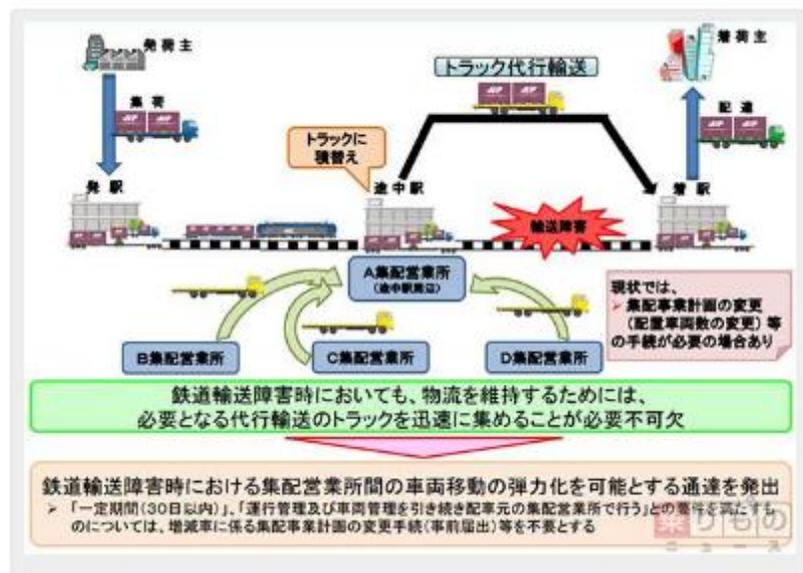
出典：国土交通省

TOPICS

☑ 状況改善を図るため、国土交通省が出したある通達

2015年、国が荷主に行った調査では、事故や災害時に鉄道が不通となる「輸送障害」に対する懸念が大きいことも分かりました。鉄道の輸送障害は、1995（平成7）年の阪神・淡路大震災から、2014（平成26）年に台風18号で東海道本線（由比～興津）が不通となった事例まで、20年間にのべ11件発生。一度発生すると長期化することが多く、こうした点も鉄道へのモーダルシフトを阻む要因となっています。輸送障害への対応では、鉄道で迂回ルートを確認するほか、代替の輸送手段を迅速かつ低コストで手配することも必要です。

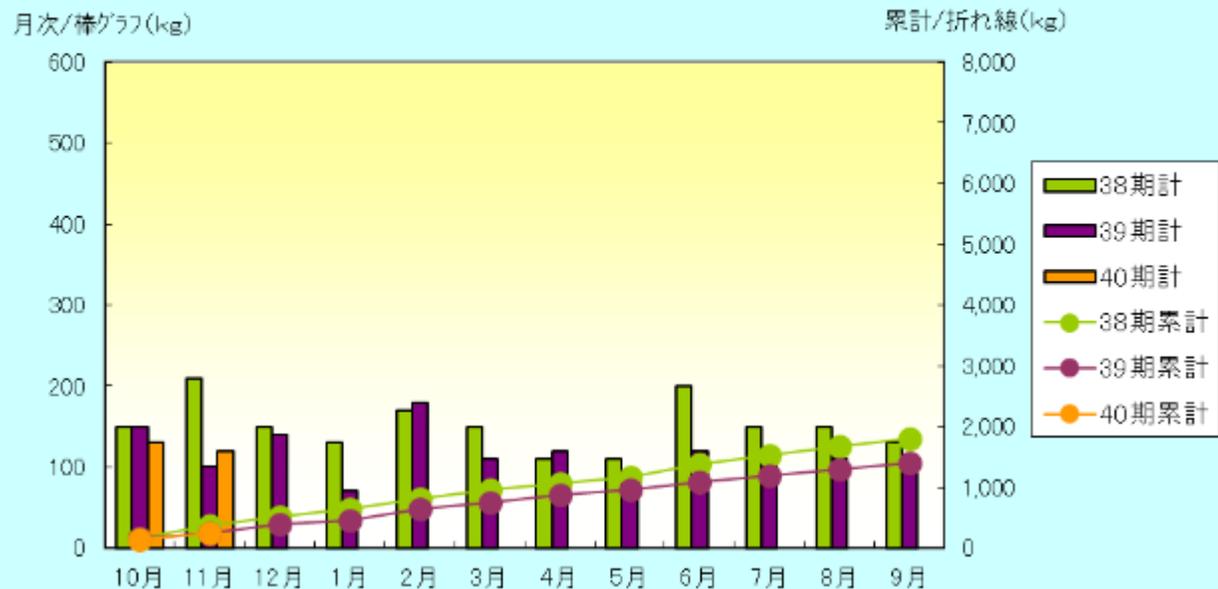
しかしこれまで事業用のトラックは、各営業所に配置する車両数を事前に届け出る必要がありました。そのため鉄道に輸送障害が発生し、トラックを応援に回そうとすると、この届出の変更手続きが必要で、手間と時間がかかることから大きなネックになっていました。



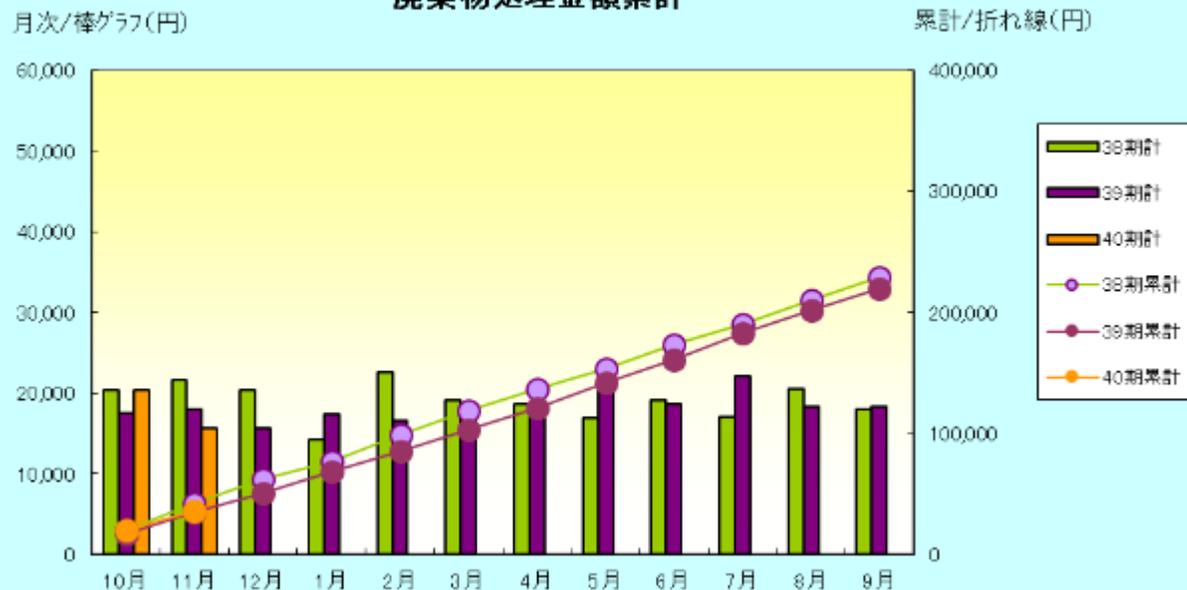
国は2015年10月1日に、通達を出してこの状況を改善。30日以内に元の営業所に戻すのであれば、不通となった鉄道への応援の際、届出なしでトラックを配置転換できるようにしています。

今後モーダルシフトを推進していくには、こうした法規制や税制などソフト面の見直しと、ハード面を含む鉄道貨物輸送の効率化を連動させることが重要です。

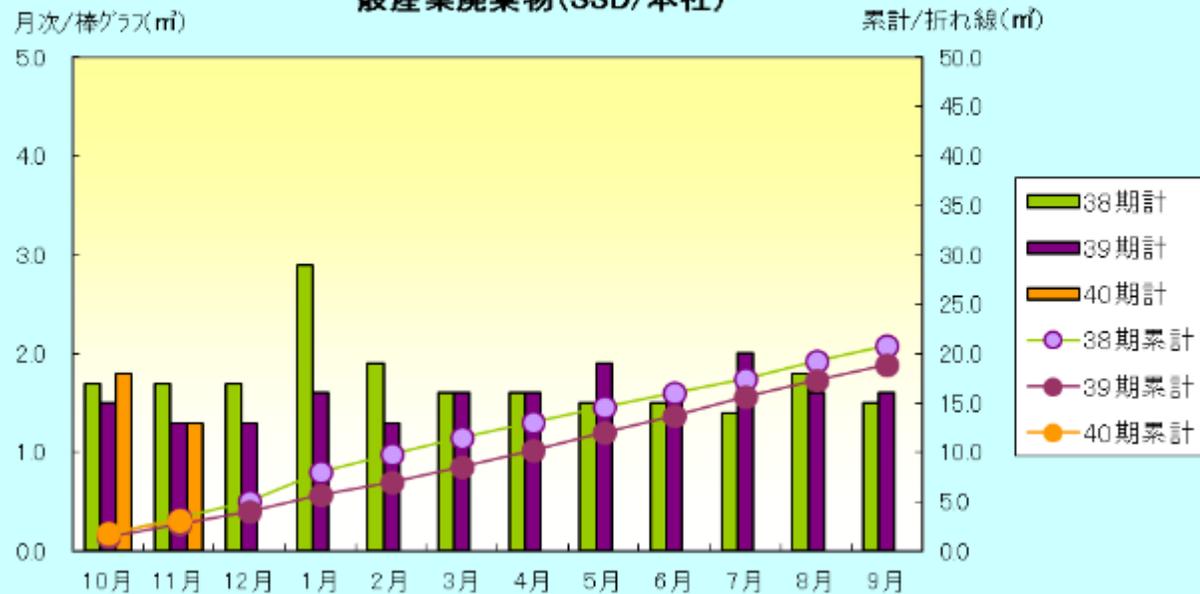
一般廃棄物(SSD/本社)



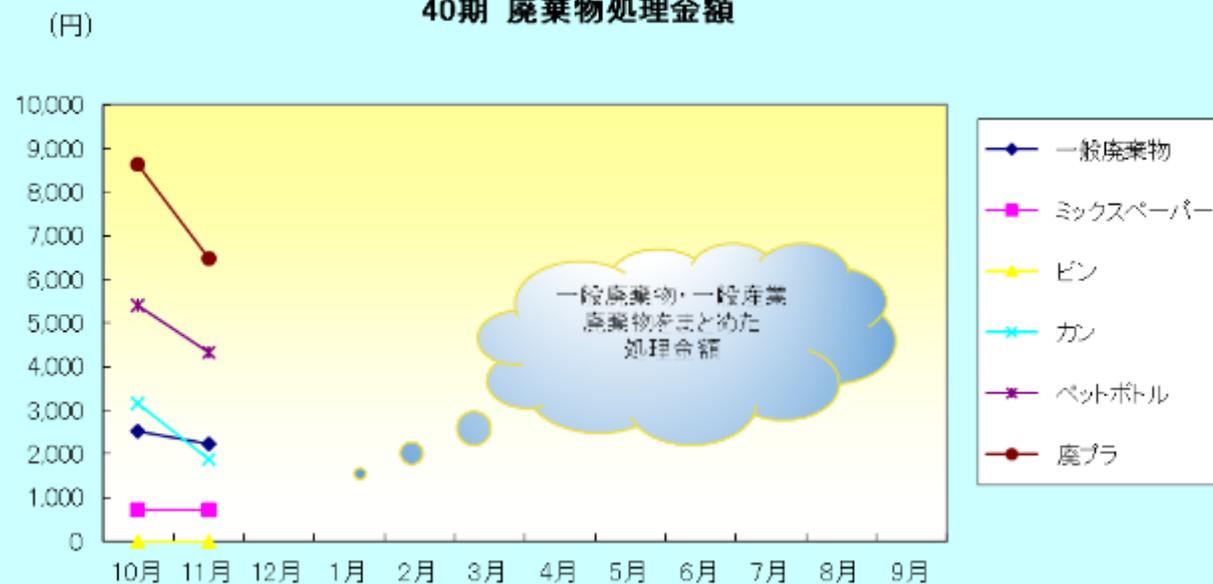
廃棄物処理金額累計



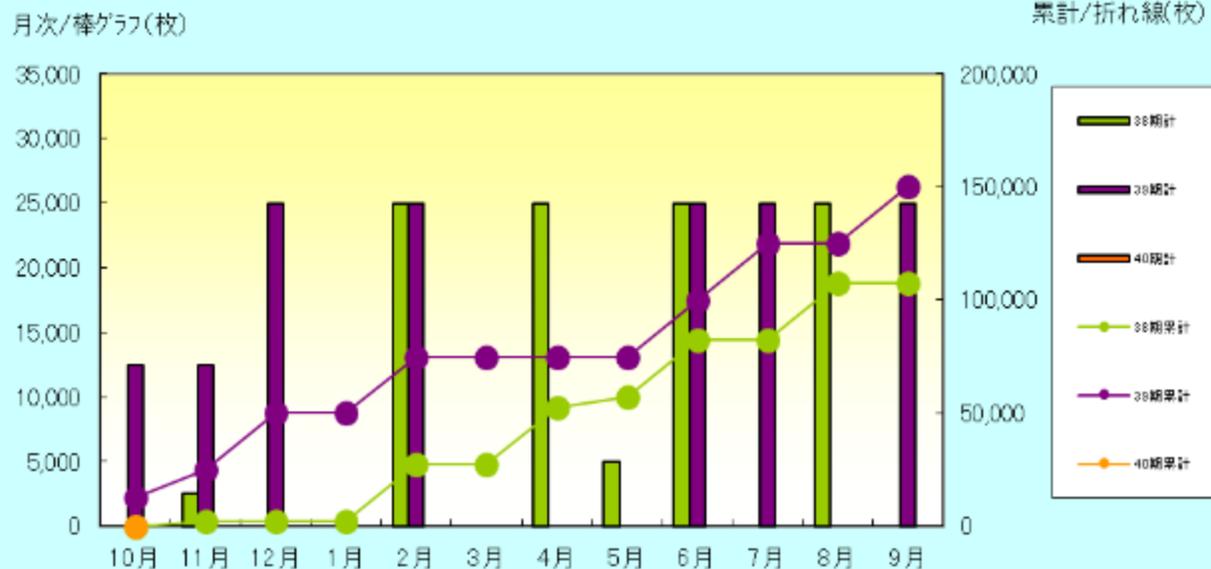
一般産業廃棄物(SSD/本社)



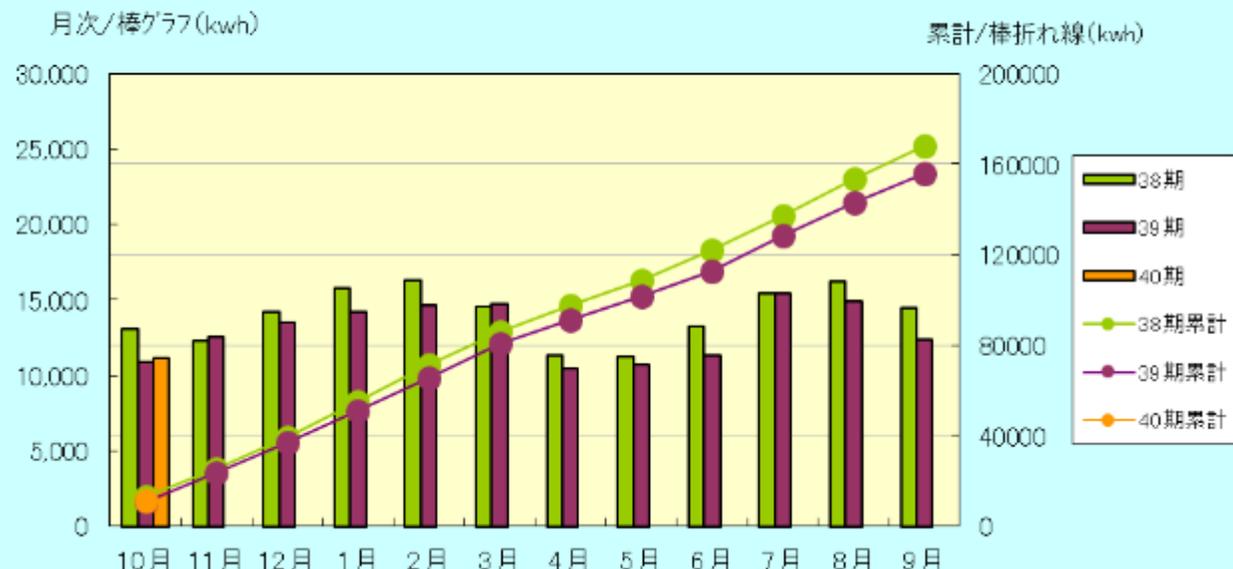
40期 廃棄物処理金額



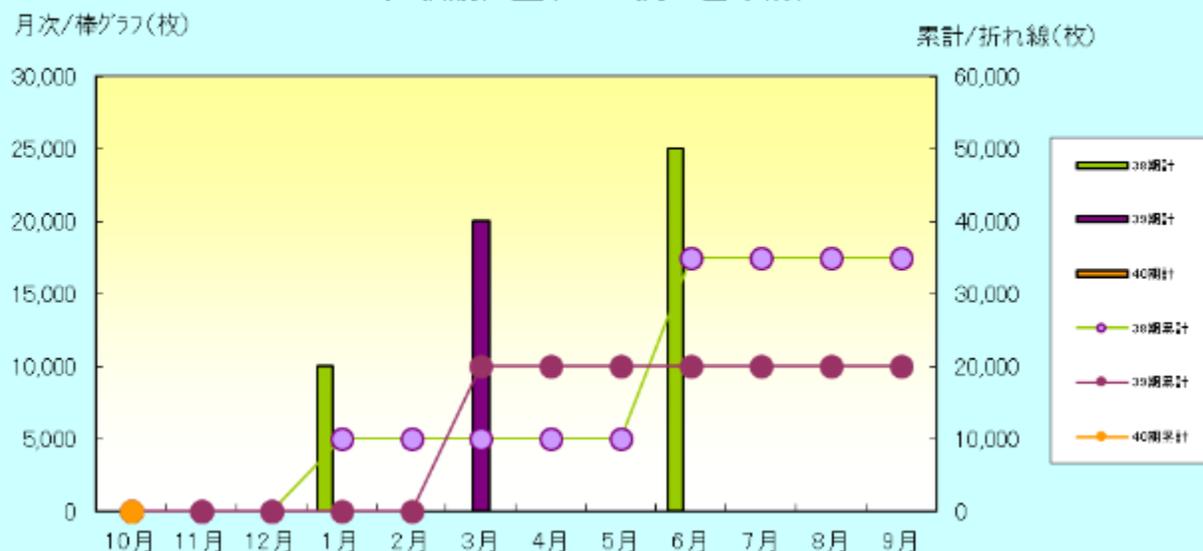
コピー用紙購入量(SSD/本社)



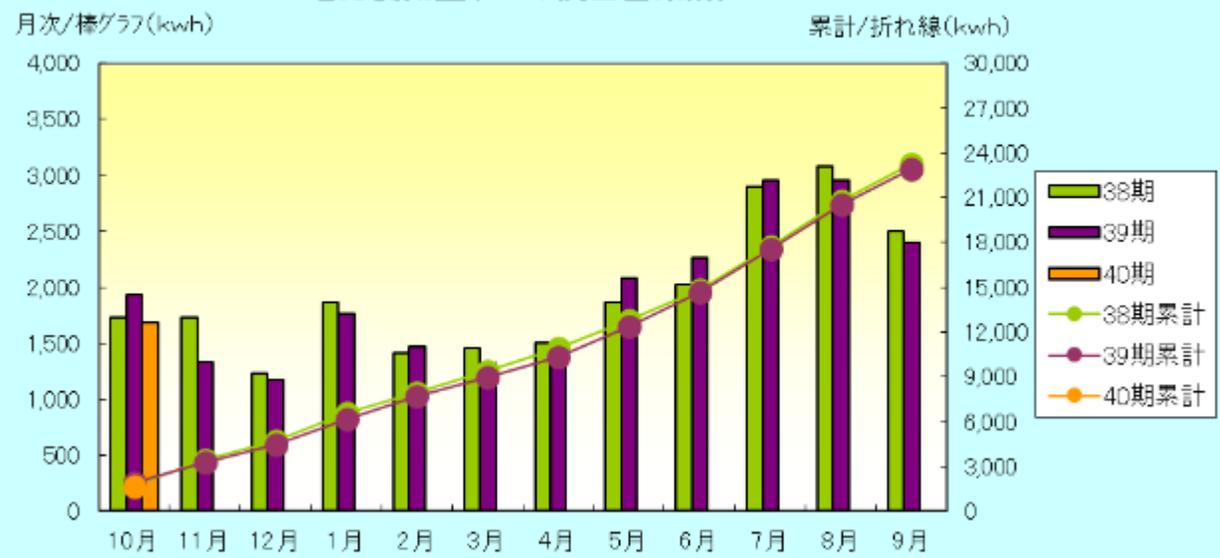
電力使用量(SSD/本社)



コピー用紙購入量(SSD/関西営業所)



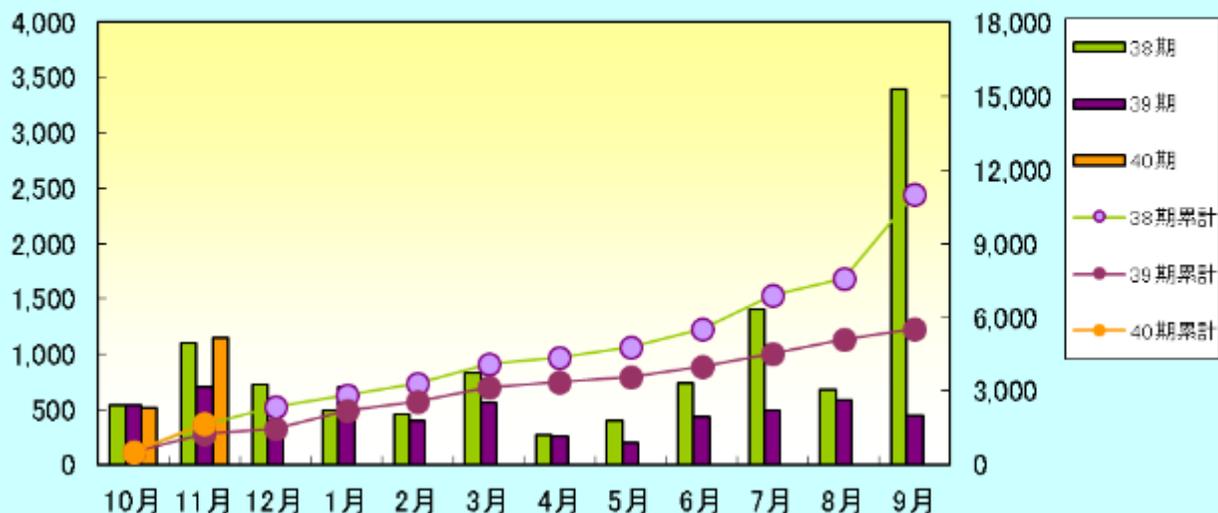
電力使用量(SSD/関西営業所)



ペットボトルのキャップ

月次/棒グラフ(個)

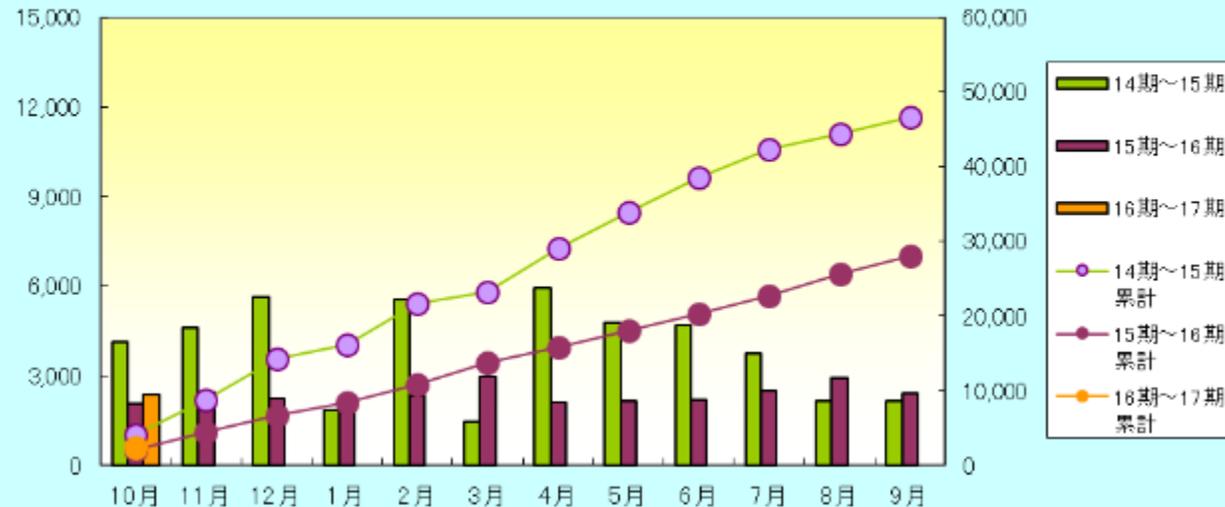
累計/折れ線(個)



電力使用量(SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

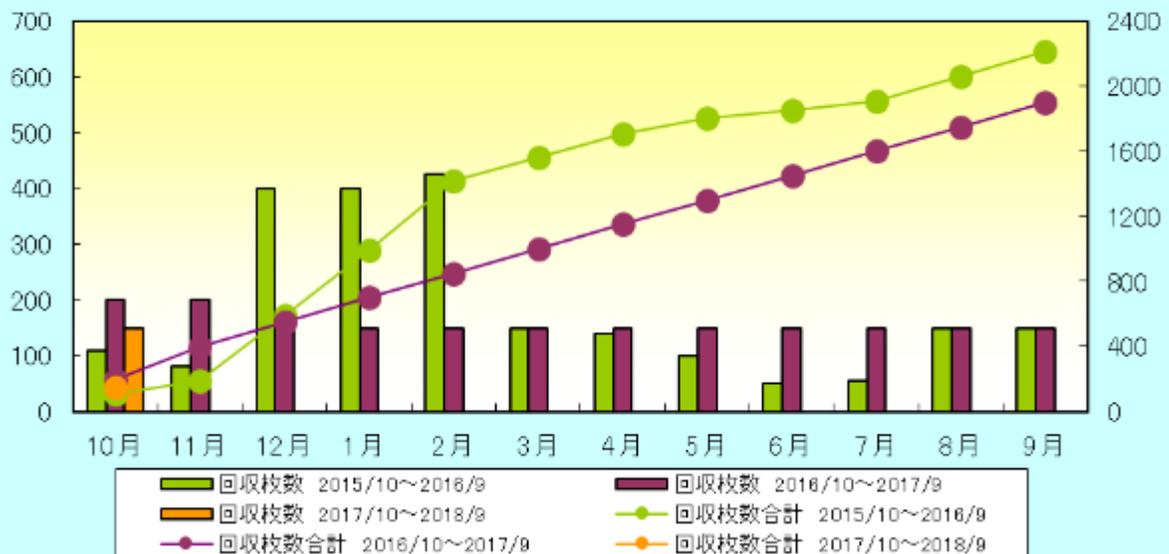
累計/折れ線(kwh)



使用済み切手回収

月次/棒グラフ(枚)

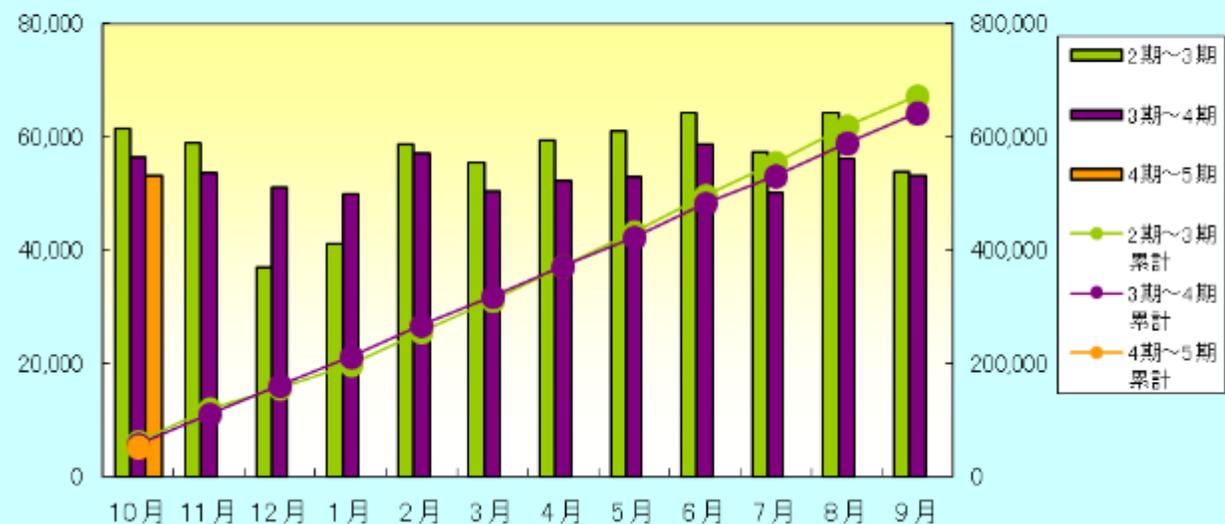
累計/折れ線(枚)



電力使用量(SKW/CSI工場)

月次/折れ線(kwh)

累計/折れ線(kwh)



CSR Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

活動報告

- ①TOPICS
- ②地域貢献活動
- ③ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ④人財育成への取り組み

TOPICS

■東京都より「平成29年度スポーツ推進企業」の認定及びスポーツ庁より「平成29年度スポーツエールカンパニー」の認定を受けました！

サンシン電気（株）は、東京都より「平成29年度スポーツ推進企業」の認定、またスポーツ庁より「平成29年度スポーツエールカンパニー」の認定を受けました。

今回の認定は、社員の健康が健康経営に繋がるものと捉え、日々、社員のヘルスリテラシーの向上、生産性の向上を推進することを目的に、身近に取り組める階段の利用を推奨・実践していることが認められたものです。社員は日々、エレベーターやエスカレーターを利用せず、積極的な階段利用を実践しています。

この認定制度は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、東京都とスポーツ庁が社員の健康増進に積極的に取り組んでいる企業を応援するものです。初年度の今年も、東京都では196社が「スポーツ推進企業」に選ばれ、全国では217社が「スポーツエールカンパニー」の認定を受けました。

これからも社員の健康増進のために身近にできることから取り組みを進めて参ります。



地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（11月参加人数：延べ12名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（シグマ・フード・サービス）
- 動物介在ボランティア活動実施（シグマ・フード・サービス）
- 季節の飾り物をエントランスにディスプレイ：クリスマスツリー（12月）

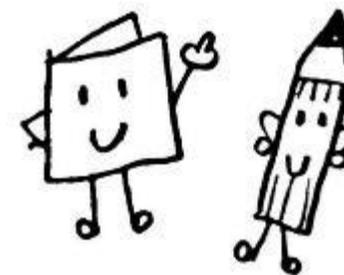


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績4名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養してる社員への加点実施
- 永年勤続者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 毎年インフルエンザワクチンの予防接種費用を会社が補助
- 毎月1回、マッサージ・リフレクソロジーサービスを実施（女性を中心に毎月10名参加）
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コース1（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2017年5月）
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2017（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年8月）
- 東京都より「平成29年度スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「平成29年度スポーツエールカンパニー」の認定取得（2017年11月・12月）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・新製品紹介・英会話・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAを全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能



編集
後記

SalesCENTRE Y.Y.

今月号を以って今年度のCSR Report配信は最後となります。3月号より始まり早や10ヶ月、貴重なご意見、またご指導により少しずつではございますが、形になっていったと思っています。これもひとえに皆様のご協力あってのこと、1年間ありがとうございました。2018年もどうぞよろしくお願い致します。